

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202824		
法人名	有限会社 アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホーム ポプラ		
所在地	札幌市北区新川3条4丁目8番40号 (電 話) 011-766-1177		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月18日

【情報提供票より】 (21年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年2月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 8人 非常勤 11人 常勤換算	13.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 20,000円 暖房費 (11~3月) 7,000円
敷 金	有 (50,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または月	40,000 円	

(4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護 1	2 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	5 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌みどりのクリニック、メンタルケア札幌、ゆき小児歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長は単独で開設から運営、そして管理者として日常業務に係わり、利用者本位のケアを基本にして職員とともに地域との係わりを重視して、暮らしを支えている。介護度の高い利用者には、質の濃いケアを実施し、可能な限り、地域の行事に参加している。また、定山溪温泉 1 泊旅行を家族も交えて毎年実施し、利用者の笑顔に職員は励みをいただいている。運営推進会議が定期的開催され、地域との連携が良好になっている。利用者・職員隔たりにく家族的な暖かいホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での3項目の改善課題 (運営推進会議を活かした取組み・職員を育てる取組み・重度化や終末期に向けた方針の共有) については、職員全員で取り組み、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	開設から毎年評価を実施しているが、職員全員が意義を理解し、積極的に取り組んでいる。しかし、ガイドブックを参照していないと思われることから難解な項目が見受けられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され、利用者の眼の届くところで様々な内容が話題となっている。地域の理解をいただくことが浸透し、施設長が地域と馴染みがあり、今後さらに良好な関係が出来つつある。避難訓練の協力体制が整ってきている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族会を年2回ほど開催し、意見交換をしている。家族の協力をいただいて、定山溪温泉 1 泊旅行の実施は特記に値する。さらに、四半期毎に家族アンケートを実施して運営に活かしている。日頃から面会が多く、気軽に話せる関係が出来ている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入し町内の行事のみならず、日常的な交流がある。ゴミだしや清掃など利用者も関わっている。運営推進会議に町内の役員が出席し、避難訓練の協力もいただいている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を図ることを掲げ、利用者本位に生活の質の向上をめざしたホーム独自の運営理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実践に向けて、「入居者に心の希望を」の精神で日々努力して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内の行事に参加して協力することをホーム職員と利用者が日常的に重視し、良好な関係作りがなされている。運営推進会議には、町内会の役員に毎回出席していただき連携を密にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設から毎年評価を実施しているが、職員全員が意義を理解し、積極的に取り組んでいる。しかし、ガイドブックを参照していないと思われることから難解な項目もあり、今回の評価で具体化の方向性が示唆された。		

札幌市北区 グループホーム ポプラ

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月毎に定期的開催され、出席者のホームへの理解が深まってきた。地域との連携が良好となって協力がいただけるようになり、様々な意見がサービスの向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターなど行政機関とは日常的に連携を取り、指導をいただきながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ポプラだより」を作成し家族に送付している。また、利用者一人ひとりに対応した手紙を担当職員が記載して添付し、家族に喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回ほど開催して意見交換をしている。また、ホームでは年4回、家族アンケートを実施し、返信先を施設長個人宛とし、家族の思いの把握に努め、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は多くはないが止むを得ない職員交代の際には、利用者に寄り添い担当者を決めて馴染みの関係をつくっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では毎月テーマを決めて、学びの時間をもっている。また、外部研修には交代で出席するようにして、レポートで報告して共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議などで交流の機会をもち、職員の相互訪問を実施し、ケアの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の身体状況や家族の状況によって、見学、話し合いを十分行い、納得していただいた上で利用を開始している。混乱を最小限に抑えるように馴染みの関係作りに努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は家族の気持ちを重視し、利用者本位にともに生活をする姿勢でケアに取り組んでいる。一緒に笑ったり、感動して楽しく暮らしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、とくに会話が困難な場合は、思いや暮らし方の意向の把握に表情から汲み取り、家族の協力をいただいて支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らすために、職員会議やケア会議を開催し、介護支援専門員の指導のもとに家族の意見も含めて、介護計画を作成している。日々の記録は介護計画と連動している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月利用者一人ひとりについて状況把握をし、3ヵ月毎に見直しをしている。但し、状況の変化にはすばやく対応し、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームには車椅子対応の自動車を所持し、外出支援など柔軟に支援している。利用者や家族の希望で通院介助、お墓参り、里帰りなどがある。また家族の宿泊対応も可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関と連携をとり利用者の健康管理に配慮をしている。訪問看護師は週1回、往診医師は月2回、定期的に受診をし、家族の安心になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者と家族・医師との連携をとり、終末期の対応や重度化について納得がいただけるようホームとして《重度化に対しての指針》を作成して医療連携を取りながら支援している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のみならず、職員も家族もそれぞれの個人情報の取り扱いには慎重にしており。言葉かけにおいても配慮がある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	性別、性格、年齢、介護度など個人差を考慮し、ホームが居心地の良い場となるように、個別ケアを重視している。利用者のペースに合わせて支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3度の食事は利用者とともに、献立を考えたり、準備や盛り付けをして楽しい雰囲気の中で行なっている。後片付けについても出来る利用者には協力していただいている。食事介助の必要な利用者には職員が手を添え、支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が利用者にとって楽しみとなるような工夫をし、おおむね週2回を目途に身体状況に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの家事の分野で利用者の力量や気分、張り合いなど十分考慮して、役割を自然体で発揮する場面をつくっている。ホームの屋外行事などの様子がわかるアルバムなど身近にあると、なお一層楽しみが深まるものと期待したい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は利用者の希望や、介護計画に沿って、日常的な外出の機会をつくっている。買物、散歩など車椅子の対応も支援している。季節の行事としてお花見や紅葉狩りなど楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室に日中施錠はしていない。開閉が把握できるような工夫をしている。夜間のみ施錠している。また、居間の窓から玄関の状況がわかる間取りになっている。		

札幌市北区 グループホーム ポプラ

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力をいただいて、避難訓練を実施している。地域の住民協力体制もいただけるように働きかけ、日頃から連携が良好である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は職員が利用者の希望などを考慮して作成し、利用者のレベルに合わせた食事介助の支援をしている。	○	栄養バランスやカロリー把握など専門家の点検があるとさらに充実した食事の支援につながると期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者は十分考慮をして間取りを決めて建築をし、利用者にとっても、職員にとっても使いやすい工夫が随所に見られ、居心地の良い共有の空間がある。壁面の利用も工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のつくりは同じであるが、利用者一人ひとりの個性を活かした調度品を配置し、落ち着いた自分の部屋になっている。		

※ は、重点項目。